

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0117 NO76

校長 伊波喜一

鶯の 寄り集まるや 蜜吸いて けだし賑わし 春に先駆け

正門前の紅梅・白梅が、同時に花開いた。梅は春に先駆けて咲く。

馥郁（ふくいく）と咲く花は、回りの茶褐色の大地を背景に、その紅と白の点描が鮮やかに目に留まる。芳香な香りも、冷え切った空間を和ませるかのように、その存在を際立たせる。その寒さに耐えて佇立している様から、松・竹・梅を**厳寒の三友**とも呼ぶ。古来より、人々に愛でられてきたのも、頷けるところである。正月早々、紅白の梅に鶯の取り合わせを見ることが出来たのは、縁起が良い。私達の生活になじみの深い梅だが、原産は中国である。大陸から海を渡って、異郷の地に根を張ってきた。この移植ほど難しいものはない。いきなり移植したのでは枯れてしまう。時間と労力をかけ、梅の体調にあわせながら少しずつ慣れぬ地に適応させたのである。

子どもに物教えする時も同様であろう。朝（あした）に学んだ事を血肉化し、夜になる頃には咀嚼出来ているとするのは理想だが、咀嚼には時間がかかる。だが十分に咀嚼して張った根は、しなやかで・強く・へこたれない。待つことは人材育成の要ではなかろうか。